

PMR資格試験への挑戦 2

「知の探索」の推進役として

川越 英文

■ 受験動機

私が PMR を受験した主な動機は、自社の将来を担うメンバーに対し、価値創造活動に資する実践ノウハウを習得させたいという思いからであった。

VUCA はエネルギー業界にも確実に押し寄せており、既存事業においてもディスラプションが起こる可能性は十分にあり得る。自社に限った話しではないが、このような破壊的イノベーションに対処するためには「知の探索」と「知の深化」を実践できる人材の内製化が必要である。特に、「知の探索」については私自身が推進役としての一翼を担えるよう精進するとともに、自社の経営ビジョン・事業戦略を具現化できる後継者を育成しなければならないと強く感じるようになった。

昨今の先行きが不透明で複雑性が増している時代において自社が持続的に成長するためには、先見性と大局観を持ってプログラムを推進する力を高めることが重要と考える。そのためには、私自身が P2M の知識体系の理解を深め、実践力を磨かなければならないという思いに駆られ、事上磨練として PMR を受験することにした。

■ 受験の感想

PMR 受験の率直な感想は、「大変だけど、楽しい」ものであった。

一次試験、二次試験ともに、様々な業種の時事的要素や経営課題を含むケーススタディをベースとした設問が繰り出される。何れの設問も制限時間内で指定の文字数で解答しなければならないため、知識と経験に基づく直観力と洞察力が試されることになる。

まず、一次試験で意識したことは、「ありのままの姿（現状）」を可視化し、洞察力を持って全体最適の「あるべき姿」を定義付けることであった。この点を丁寧に押さえることが大切である。

次に、二次試験（モジュール試験）であるが、試験というよりは訓練に近いものがある。1 日目を終えた時点で脳が相当に疲弊してしまったが、2 日目になると自分自身の思考が研ぎ澄まされる感覚に陥った。

また、ワークショップでは、価値観や商慣習が異なる様々な業種の方々との議論において、意見が対立することも少なくなかった。このようなコンフリクトが生じるなか、各メンバーがミッション達成に向け、情熱的に議論し合意形成を図っていく活動は刺激的であった。特に、リーダーシップ、ファシリテーション、エンゲージメントについては、他の受験生の言動から多くの学び・気づきがあり、私にとって貴重な機会となった。

PMR 試験は、事業領域の垣根を超えた共通的なプログラム・プロジェクトのマネジメント能力が問われるため、スキームモデルの経験が少ない方は「PMR 養成研修」を受講してから挑むことをお勧めしたい。

■ PMR としての展望

私の PMR としての展望は、冒頭で述べたとおり「後進の育成」である。至近においては DX による新たな価値創出や業務変革が求められるなか、まずは職場においてプロジェクトマネジメントのコア知識（PMC レベル）の啓蒙を図り、「知の探索」を実践できる人材の裾野を広げていきたい。

加えて、私の責務として各種プロジェクトの旗振りを行うビジネスプロデューサー的な立ち位置を担っていかねばならないと考える。更に、私自身のマインドセットとして、自社グループの理念である「ずっと先まで、明るくしたい。」を追求し続け、PMR として社会的課題の解決や地域の活性化に繋がる価値創出に貢献していきたい。



【プロフィール】 川越 英文（かわごえ ひでふみ）

九州電力送配電株式会社 宮崎配電事業所 配電グループ長

電気事業における「電気をはこぶ」という事業ドメインを所掌する配電部門に所属。現在は電力安定供給の最前線である配電事業所に勤務。

その他、再エネ発電事業の開発（洋上風力、バイオマス、潮流等）や新規事業の開発（事業多角化）の実務経験を有し、様々な業種とのアライアンスによる価値創造プロジェクト（スキームモデル）に従事。

保有資格：PMR、PMP（米国 PMI）、エネルギー管理士、第三種電気主任技術者、1 級電気工事施工管理士、日商ビジネス法務検定（2 級）、日商簿記検定（2 級）他